



なか がわ たみ ひで
中川民英

にほんきょうざんどうつしぎだん
日本共産党津市議団

第4期津市障がい福祉計画（案）について

問 地域生活への移行を進める計画だが、受け皿が整備されないまま移行されても当事者は困惑する。これにどう対応するか。グループホームの整備が求められているが、空いているアパートなどへの事業案内等をして拡充すべきではないか。就労支援において企業への働きかけを他部署とも連携し進めるべき。

また、成年後見制度を周知し活用を拡げるべきではないか。

答 地域生活への移行については、津市障がい者相談支援センター、入所している福祉施設や計画相談支援事業所が連携して、本人や家族の意向を確認し、地域で生活するためのグループホームや障がい福祉サービス等の支援体制の推進に取り組んでいる。空きアパートなどへの事業案内等については、市では検討している状況にはないが、社会福祉法人の取り組みにより新設される場合もある。

就労支援における企業への働きかけについては、商工観光部やハローワーク津などと連携した取り組みも進めていきたい。

成年後見制度の周知については、市の窓口や関係機関へのパンフレット等の備え置きなどにより、必要な方に情報が伝わるよう取り組んでいきたい。

●その他の質疑・質問●

○津市営浄化槽の条例の制定にあたって、浄化槽設置の進め方、計画を明確にせよ。高齢者世帯、低所得者世帯への支援策の充実を求める。色々の支援策を施すことを市全体としての観点から考える必要がある

○小規模企業振興基本法を受け小規模事業者が事業を支える人材を確保し、育成できる環境づくりを考える必要がある など



▲障がい者が明るく生活することができる受け皿づくりを



いわ わき けい いち
岩脇圭一

いっ しん かい
一津会

2020年東京オリンピックへの取り組みは

問 平成33年に三重県で開催される第76回国民体育大会に向け、その前年に行われる東京オリンピック・パラリンピックを津市のスポーツ振興に積極的に活用できるよう取り組みを推進すべきと考える。各種競技の事前キャンプの誘致や競技力の向上、スポーツ大会運営を支えるボランティアの育成、また、文化プログラムへの参加についてどのように取り組むのか。

答 オリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致には、中央競技団体、相手国競技団体との協議や、キャンプ地として必要な施設基準や経費負担の把握が必要など多くの課題があるが、津市には津ヨットハーバーや、現在建設を進めているサオリーナといった施設があり、課題を精査し、津市の方向性を決定していきたい。

キャンプ誘致による海外のナショナルチームの選手との交流や触れ合いが、選手やボランティアの人材発掘や育成のよい機会になると思っている。

今後、全国各地の伝統文化や芸術活動の特性を活かした文化プログラムの提供が求められることが予想される。国・県からの情報を注視しながら研究していきたい。

●その他の質疑・質問●

○劇場、音楽堂等の活性化に関する法律に基づいて文化施設の運営はどのように変わるか

○今後の公共図書館としてのあり方について市民参加で議論を

○来年度、地域連携課が設置され、どのように施策は変わるか

○災害時の避難所運営に関する職員研修、市民への啓発は

○防災行政無線の戸別受信機導入に向けて など



▲サオリーナなどの有効活用とソフト面のさらなる充実を